



2013  
冬季号

# ほっと石川

特集①

伝統文化・芸能の魅力  
“いしかわの至宝”を  
全国発信・次世代に継承!

特集②

小松空港から毎日運航!  
台湾がぐーんと身近に



特集①  
伝統文化・芸能の魅力  
“いしかわの至宝”を  
全国発信・次世代に継承! ... 2

特集②  
小松空港から毎日運航!  
台湾がぐんと身近に ... 6

知事の窓 ..... 11

ほほえみ 石川のボランティア  
松任手話サークル  
和の会(白山市) ..... 11

トピックス  
北陸新幹線  
金沢開業まであと2年!! ... 12

里山里海だより  
新崎・志ヶ浦地区(穴水町) ... 15

能登ふるさと博 ..... 16

表紙について

■シリーズ  
いしかわのお楽しみスポット  
健民スポレクプラザ(金沢市)

金沢市西泉にある健民スポレクプラザでは、県内で唯一のアイスリンクを開設しています。今年の営業期間は5月31日まで。スケート靴のレンタルもあるので、気軽にスケートを楽しむことができ、期間中は多くの家族連れでにぎわっています。また、ここは県内でフィギュアスケートを練習する子どもたちの拠点でもあります。そんな子どもたちの見事な演技と同様に、好調な滑り出しを見せたのが、昨年12月から小松空港で毎日発着している台北便です。6ページから特集していますので、ぜひご覧ください。

表紙イラスト制作/アマヤギドウジュン(金沢市在住)

いしかわの至宝  
3人の略歴



**木村澄子さん**  
子どものころから長唄・鳴物を学ぶ。昭和22(1947)年に長唄、27(1952)年に鳴物の名取免許を取得する。53(1978)年には金沢素囃子保存会を創設し、理事長に就任。芸妓だけでなく、一般の方にも金沢素囃子の魅力を伝えている。



**荻谷みねさん**  
子どものころから歌舞伎舞踊や笛などに親しむ。特に笛の習得に励み、高度な技量が求められる一調一管笛で多くの人を魅了している。現在、金沢素囃子保存会常任理事。



**中西範子さん**  
小鼓を中心に歌舞伎舞踊や三味線などに励む。小鼓の第一人者として、一調一管小鼓の芸術的な演奏を披露している。現在、金沢素囃子保存会常任理事。



卓越した技で観客を魅了する一調一管



金沢素囃子の伝統は茶屋街の芸妓さんを中心に受け継がれています

藩政期から受け継がれてきた質の高い伝統文化・  
芸能が花開く石川県。県内にはそれぞれの道を追  
求する第一人者が数多く活躍しています。

き抜かれた芸はふるさとの大切な宝であり、県民の方々により親しんでいただけるよう、都道府県レベルでは初めての試みとして県指定無形文化財保持者に、石川県版人間国宝として、いしかわの至宝と名付けました。県では今回の認定を弾みとし、石川の個性とも言える伝統芸能の発信に一層力を注いでいくとともに、北陸新幹線金沢開業を控え、全国の皆さんに本物の妙技を堪能していただけるよう、伝統芸能に携わる方々の範として活躍し、次の世代にも質の高い技術を引き継いでいくことを期待しています。

※一調一管とは・・・  
※小鼓(調)と笛(一管)のみによる演奏形式で、高度な技量はもちろんです。双方には、息の合った演奏が求められます。創意工夫を凝らし、雅で幽玄の世界を醸し出す迫力ある演奏は、聴衆を魅了します。  
※一般的には、大鼓や太鼓の場合もあり

全国にも例のない  
芸能の宝庫

石川県は伝統芸能の宝庫であり、その伝承の第一人者が古くから輩出され、全国にその名を知らしめてきました。この土地では、親から子へ子から孫へと芸が受け継がれ、芸名も代々襲名されていくことが多くあります。また、一代で名人と呼ばれるまでになる人が多いのも、石川の伝統です。

今回「いしかわの至宝」に認定された木村澄子さんは長唄と鳴物の演奏家であり、それぞれの師匠でもあります。一方、笛の荻谷みねさん、小鼓の中西範子さんは現役の芸妓であり、師匠でもあります。このようにいくつもの看板を掲げて活躍し、後進の育成にも力を注いでいます。

昔から金沢では、邦楽、舞踊の人間国宝をはじめ一流の師匠を東京や関西から迎えて指導を受けてきた点も大きな財産です。そして、東西の芸風を融合させて、石川ならではの大きな芸の山脈を築きあげてきたと言えるでしょう。

インタビュー



県立音楽堂 邦楽監督  
駒井 邦夫さん

伝統芸能が今も息づく三茶屋街



金沢市

にし

ひがし



「女性に好まれるおしゃれ工芸」公開審査会ゲスト審査員として女優岸恵子さんをお迎えいたします

●問い合わせ  
県伝統産業振興室 TEL 076(225)1526

## 2月、東京で伝統工芸フェア開催

石川の伝統工芸の魅力を全国に発信し、伝統工芸を身近に感じていただくため、今年2月8日～10日、東京ドームシティ・プリズムホール（東京都文京区）を会場に、「いしかわ伝統工芸フェア2013」を開催します。フェアでは「女性に好まれるおしゃれ工芸」をテーマに、普段使いのできる女性好みの商品約100点で競う公開審査会を実施します。ゲスト審査員に女優の岸恵子さんらを迎え、来場者の皆さんとともに最優秀賞を決定します。

また、欧州ブランドとコラボレーションした商品や伝統工芸を活用した産業資材の開発商品などを展示するほか、3万点を超える商品をフェアだけの特別価格で販売し、県内の多彩な伝統工芸をアピールします。

## データで見る 伝統文化

美術工芸王国・石川のレベルの高さや、いかに県民の生活に伝統文化が浸透しているかなどは、データにも表れています。

●問い合わせ  
県文化振興課 TEL 076(225)1372



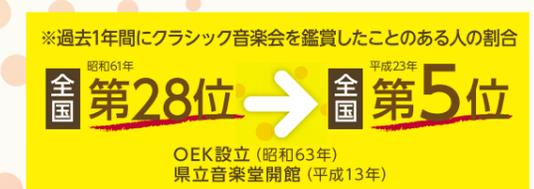
## OEK発足から25周年 新しい文化も県内に浸透

県内では近年、伝統文化だけでなく、クラシックを楽しむ方も増え、※クラシック音楽に親しむ人の割合は、全国5位(平成23年)となっています。

県民へのクラシック音楽の浸透に大きな役割を果たしたのが、オーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)と公演の拠点となる県立音楽堂です。今年、OEKは、昭和63年の結成から25周年の節目を迎えます。これを機に、成長したOEKの演奏を聴いていただくとともに、より多くの県民の皆様が愛されるオーケストラを目指していきます。

その一環として、県内全市町でOEKの公演を開催するとともに、地元の合唱団等の音楽団体と共演するなど、各地域での音楽文化の振興・発展にも貢献していきたいと考えています。

また、県立音楽堂では、OEKの定期公演をはじめ、多彩なコンサートを実施して皆様のご来館をお待ちしています。ぜひ、素晴らしい音楽文化の魅力を感じてください。



出典：平成23年総務省社会生活基本調査

●問い合わせ  
県立音楽堂【(財)石川県音楽文化振興事業団】  
〒920-0856 金沢市昭和田20-1 TEL 076(232)8111  
ホームページ [www.ongakudo.jp/](http://www.ongakudo.jp/)



25周年を機に、OEKではクラシック音楽ファンの拡大に一層、力を注ぎます

# interview

県立美術館  
しまさき すずむ  
嶋崎 丞 館長



## 加賀藩御細工所が 伝統工芸の起源に

石川県は全国有数の伝統工芸の産地として知られています。県立美術館の嶋崎丞館長に、美術工芸王国・石川の歩みについて聞きました。

石川県で美術工芸が盛んになったのは、藩政期のころからです。最も大きな理由には、加賀藩・前田家の歴代藩主が主導し、文化振興に長年力を注いできたことが挙げられます。

加賀藩が取り組んだ美術工芸を中心とする文化政策の象徴は、2代利長がスタートさせ、5代綱紀が組織化した「加賀藩御細工所」です。御細工所では、加賀藩主がたしなんだ茶の湯

の世界で使われるあらゆる道具類が作られました。歴代藩主の茶の湯への関心は非常に高く、利家・利長は千利休、3代利常は大名茶人の小堀遠州や茶匠・金森宗和、綱紀が裏千家の祖・千宗室仙叟に学ぶなど、当時を代表する超一流の茶人から手ほどきを受け、名品を収集し、もてつくりを行っていました。

ですから、御細工所には、江戸や京から多くの名工が御用職人として招かれ、金工や蒔絵など優れた技術が伝えられました。それが、加賀象嵌や加賀蒔絵など数々の伝統工芸の礎となつていくのです。中には、千宗室仙叟の指導のもとに数々の名作を残した大樋焼の初代大樋長左衛門と茶の湯釜の初代宮崎寒雄もおり、その伝統は現代まで脈々と受け継がれています。

## 藩主の高い美意識が 町民にも広がる

全国各地の工芸品を見渡してみても

# 加賀藩の文化振興策が 石川を美術工芸王国へ

も、石川県のような過程をたどって発展してきた例はほとんどありません。多くは農民の生活用品や農作業の道具などが起源ですが、その点、石川県内の美術工芸は大名調度として制作されたものから始まっており、当初から高い美意識が反映されていたと言えるでしょう。

そして、藩政期を通して、文化・工芸への意識の高さは武家全体に根づき、徐々に武家と交流する町人にも広く浸透し、石川を美術工芸王国に押し上げていきました。それは現代の暮らしの中にも息づき、お正月などのハレの日には郷土食や祝い料理を見事な伝統工芸の器に盛り付ける家庭が少なくありません。産地では給食に漆器や焼き物などを用いている中学校もあり、石川県の伝統文化・工芸の層の厚さを感じます。





石川と台湾の空をつなぐエバー航空

小松—台北便ダイヤ

小松→台北
19:30 → 22:00
台北→小松
14:45 → 18:20

※所要時間は約3時間。  
時間は現地時間で表記してあります。  
(時差:台北-1時間)

国際化が進む小松空港では現在、海外への定期路線としてソウル便、上海便、台北便の3路線が就航しています。平成23年度の国際線利用者数は過去最高を記録し、チャーター便を含めると、約12万人の方にご利用いただきました。中でも、台北便の利用者数は毎年増加を続け、24年度は11月時点で前年度を上回るなど、順調に増加しており、23年10月に週2便から4便、24年9月からは5便化が実現しました。そして、12月からは小松空港初となる国際定期便のデイリー化路線として石川県と台湾を結んでいます。毎日運航されることにより、旅行や出張の日程を組む上で、利便性が飛躍的に向上し、観



張國煒社長と谷本知事が会談

光・ビジネスの両面で多様なニーズに対応することが可能となり、小松空港は新たなステージに入ったと言っても過言ではありません。デイリー化された昨年12月8日には、台北便を運航するエバー航空や県議会、地元の皆様など多くの方に出席いただき、記念式典を開催しました。県では今後、今回のデイリー化を小松空港のさらなる飛躍につなげていくために、航空会社なども連携し、台北便の安定的な利用者の確保に全力で取り組んでいくほか、随時、積極的な広報や情報提供を行ってまいりますので、ぜひ一度ご利用ください。

台北便のデイリー化を記念しテープカット



特集②

小松空港から毎日運航！

台湾が

ぐーんと

身近に



昨年12月8日、小松空港発着の台北便がこれまでの週5便から増便され、1日1便の毎日(デイリー)運航となりました。歴史や文化、レジャーなど、さまざまな魅力にあふれた台湾がぐーんと身近になっています。

台北中心部のデパートに壁面広告を掲示し、デイリー化をPR





ノスタルジックな雰囲気のある九份 (写真提供/台湾観光協会)

圧倒的なスケールを誇る台北101 (写真提供/台湾観光協会)

# 台湾に行こう！

## 新旧が融合した魅惑の街

### グルメやエステ 見どころが満載

小松空港から毎日1便が運航する台湾。世界の最先端技術が詰まった高さ509mの超高層ビル・台北101や古い街並みが郷愁を誘う九份など、新旧が融合した魅惑の街には、おすすめのポイントが数多くあります。

## 台湾観光のいろは

### 歓迎石川県の朋友。来台湾玩。

「石川県の皆さま、ようこそ台湾へ」

台湾観光協会の秋田俊枝さんに「初めて訪れる方」「リピーター」向けのオススメ台湾観光のポイントを聞きました。

### 初めての方

まずは台北やその周辺エリアを巡ってみてはいかがでしょうか。回る際は地下鉄が便利です。台北101や世界的な故宮博物院などの主要な観光スポットは駅から近く、効率よく観光できます。夜市もぜひ訪れてください。その市ごとに名物があり、地元の人とのふれあひも楽しめます。ガイドさんが案内してくれる旅行会社のツアーもオススメです。

### リピーターの方

台南や高雄など南部に出かけてみてください。台湾西部を縦断して新幹線が走り、台北から台湾第2の都市・高雄までは1時間30分ほど。日帰りも可能です。台南は豚のそぼろ肉やエビが入った担仔麵、「軽食」や「スナック」に当たる台湾小吃といった台湾グルメの本場で、貿易都市として栄えた高雄には港町の風情が漂っています。また、東部にはタロコ峡谷などの大自然もあります。ひと足延ばして台湾の新たな魅力を発見してほしいですね。

台湾観光協会  
インフォメーションアドバイザー

秋田 俊枝 さん



台湾グルメを代表する小籠包 (写真提供/台湾観光協会)

例えば、その一つがグルメ。「食は台湾にあり」とも言われ、フカヒレやアワビ、ツバメの巣など超高級食材を使った本格台湾料理は絶品です。数々の屋台が繰り出す夜市にもぜひ足を運んでください。肉汁がジュワッと飛び出す小籠包や台湾風肉そぼろかけご飯・魯肉飯など、毎晩、庶民の味を求めて大勢の人でにぎわっています。

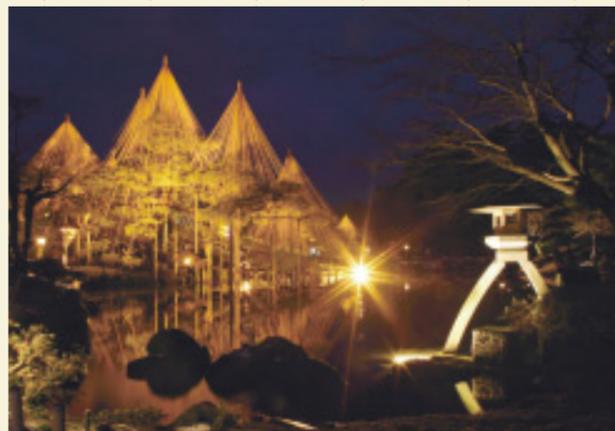
台湾には親日家の方が多く、街中には日本のコンビニやチェーン店も少なくありません。「海外は初めて」という方にもおすすめの旅行先です。



昨年10月に台湾で石川県・福井県が合同で開催した観光セミナー

## 台北便利利用者数増加へ インバウンド・アウトバウンドで 利用を促進

台北便の利用者は、台湾から旅行に来られる方と台湾へ旅行に行かれる方が半数ずつとなっています。運航便数が増えたことで、双方のさらなる需要の掘り起こしを図っています。



兼六園のライトアップは海外観光客にも人気のイベント

### 台北駅で 石川の魅力発信

台北便のデیلیー化を背景に交流人口の拡大を目指し、県では台湾から石川への誘客促進に取り組んでいます。今年1月11日〜13日には、台北駅で観光物産PRイベント「大陸ウィークin台湾」を開催。駅利用者を対象に県内の観光スポットを紹介するセミナーや御陣乗太鼓などの芸能ステージを実施したほか、工芸品の展示・実演を行い、見どころ満載の石川の旅をPRしました。

台湾の旅行シーズンとなる旧正月に合わせ、兼六園のライトアップ期間を昨年よりも6日間延長し、2月1日〜3日、8日〜17日に実施するなど、受け入れ態勢の充実にも取り組んでいます。

### 集中的な情報発信で デیلیー化を周知

一方で、台北便の活性化には、海外からの誘客だけでなく、国内から台湾へと向かう利用客を確保することも大切です。県では、エバー航空と連携し、台北便の情報を県民

に集中的に発信。12月からは、テレビCMや新聞・雑誌の広告をはじめ、金沢市内の路線バスでの車内アナウンスなどを通してデیلیー化の周知に努めています。

また、台湾の観光地を巡るテレビ番組の放映や、金沢市内のホテルと連携して台湾の食をテーマとしたデイナーフェアの開催など、台湾観光の魅力をアピール。県の職員が県内企業を訪問し、利用促進を呼びかけるなど、ビジネス客の増加に向けた取り組みも活発に進めています。

# 無料駐車場、待合室、搭乗橋の3つの施設の充実により

## 国際化を推進

小松空港では国際化に対応するため、空港施設の充実を急いでいます。そのため、今夏をめどに「無料駐車場」「待合室」「搭乗橋」の3つの施設の整備を進めています。

に駐車台数が200台超となる第2国際線駐車場を整備する予定です。航空プラザに隣接する既存の国際線駐車場と合わせ、収容能力が大幅に拡大します。

### 国際線の待合室・免税売店を拡充

国際線の待合室は現在の約1・4倍に拡張し、座席数も大幅に増加します。出発までの時間をよりゆつたりと過ごせるスペースに生まれ変わります。免税売店もスペースを広げ、アジアで人気の高い土産の化粧品や時計など外国人客の要望にも応える商品ラインアップとする予定です。

### 国際線搭乗橋を増設

搭乗橋についても、国際線専用として1基増設します。これにより、同時時間帯に2便の国際線が発着できるようになるなど、運航時刻の設定の自由度が増し、既存路線の増便や新規路線運航にも対応できるとなります。

### 2000台超の国際線利用者専用駐車スペースを増設

台北便のデリー化などによる国際線利用者数の伸びに対応するため、国際線利用者向けに第2国際線駐車場(仮称)を新設します。空港ターミナルビルから現在の国際線駐車場とほぼ同じ距離の場所



より使いやすいスペースを拡張する待合室



問い合わせ ● 県空港企画課 TEL 076 (225) 1337

日課となっている早朝のウォーキングも、始めてはや10年。雪化粧した兼六園はモノトーンの墨絵のように静かで、梅林では枝先にうっすら降った雪が花を連想させ、春を待ち焦がれます。

まちの中心部で、これほど四季の移ろいと自然の美しさを味わえるのも、石川県民の特権かもしれません。そして、この豊かな四季が人々の感性を研ぎ澄ませ、九谷焼や輪島塗、加賀友禅など数多くの伝統工芸を育て、石川の個性を形づくる土壌になってきたと感じます。

それらの魅力に、兼六園周辺文化の森でたっぷり触れられるのも石川ならではの贅沢。文化の森には、美術館や博物館などがたくさんあり、しかも近世から現代まで、その時代を代表するような美術工芸の名品がそろっています。また、伝統芸能の鑑賞したり、茶の湯を体験したりもできます。

## 肩の力を抜いて体験してみよう



「文化」というと、とかく堅苦しく考えがちですが、肩の力を抜いて自分なりに味わえばいいのではないのでしょうか。とはいえ、私も昨年、招かれた茶会に緊張感いっぱい足を運びました。実をいうと、自分の不作法でその場を台無しにしてはいけないと、前日、一夜漬けて特訓もしました。

席入りし、かしまって正座する一同に、茶道裏千家の千玄室前家元は「今日は足を崩してお楽に」とほほえまれました。正座が苦手な私。お言葉に甘えさせていただき、相客もあぐらとなった茶席には笑い声が絶えず、それは楽しいひと時を過ごすことができました。

体験しないことには、いいも悪いも分かりません。気ぜわしい日常の中に、ちよっとした心の休暇が生まれるだけで、随分とリフレッシュできます。きっと、「文化っていいな」と思えますよ。

smile 石川のボランティア

ほほえみ

松任手話サークル 和の会 (白山市)

## ろう者と聴者\*が集まる交流広場

### 楽しく手話を学ぶ

松任手話サークル「和の会」は、ろう者や難聴の方、聴者が集まるコミュニケーションの場です。毎週木曜の定例会には、白山市内の主婦を中心に30人ほどの会員が集まり、楽しみながら手話で交流を深めています。和の会の一番の特徴は、和気あいあいとした雰囲気。メンバーそれぞれで手話の熟練度に差はあるものの、定例会にはおしゃべりを楽しむたくさんの笑顔が広がっています。

生活に密着した情報交換にも役立つているようで、会では市の担当者などを招き学習会も企画。ごみの分別や松任駅の整備といったニュースを、ろう者と聴者が一緒に学んでいます。

さらに、月1回はパッチワークを楽



おしゃべりに花が咲く活動の様子。定例会後に会員同士でランチを楽しむことも多いそうです

\*聴者・・・耳の聞こえる人

しむ趣味の会、お茶を飲みながらお話しするお茶会を開くほか、毎年の秋の白山市福祉健康まつりでは手話体験コーナーをお手伝いしています。平成23年から市聴覚障害者協会主催で市内の中町商店街に設置する「白山手話サロンたんぼ」の活動にも協力。「手話を通してふれあいが楽しい」と会員が口をそろえる和の会の活動は、これからも明るい笑顔とともに続いていきます。



結成は平成3年。会員数は徐々に増加しています

● 問い合わせ  
松任手話サークル 和の会  
代表 長谷川 智美  
TEL 076(276)3151 (白山市社会福祉協議会)  
ホームページ wanokaisyuwa.web.fc2.com/

平成27年春の北陸新幹線金沢開業まであと2年となりました。新幹線の車両デザインが決定し、金沢駅舎の工事もスタートするなど、いよいよ開業の実感が高まってきました。

車両デザインが決定！  
新駅舎工事スタート！

# 北陸新幹線 金沢開業まであと2年！！

洗練されたデザインが光る  
北陸新幹線の新型車両



コンセプトは  
「和の未来」

JR東日本とJR西日本が共同開発した北陸新幹線新型車両（E7系、W7系）のデザインが昨年9月に発表されました。

新型車両は12両編成（定員934人）で、「和の未来」をデザインコンセプトとしています。本物の伝統工芸は耐久性や難燃性から採用は見送られました。スピード感のあるシンプルな流線形の車体は、日本的な気品と落ち着きを感じるアイボリーホワイトを基調に、沿線に広がる空を表現する青、伝統工芸の銅器や象嵌をイメージした銅色で伝統と未来の融合を表現しています。

車内のインテリアデザインも特徴的で、現在は東北新幹線にだけ導入されている、グリーン車を超える最上級の「グランクラス」は、漆色を基調とした壁面が重厚感を演出するプレミアムな空間となっています。グリーン車は日本の様式美とモダンな感覚を融合し、普通車はシックな大人



- 1 ゆとりある空間のグランクラス
- 2 落ち着きと気品のあるグリーン車
- 3 シックで大人の雰囲気がある普通車

の雰囲気演出。これまでの新幹線とは異なり、これから北陸へ向かうというワクワク感が感じられるような「和」のデザインが光るなど、石川のイメージに合ったものとなっています。

## 駅舎の内装に「本物の伝統工芸の活用へ」

新幹線の金沢駅舎については新幹線を降りた瞬間から、石川の「本物」の魅力に触れていただくため工夫を凝らします。ホームや待合室に、輪島塗や九谷焼といっ

た石川が誇る伝統工芸を活用していく計画で、石川ならではの「おもてなし」を実現できるように、産地の協力を得ながら、金沢市と連携して取り組んでいきます。

## 昨年12月に 金沢駅舎工事を着工

昨年12月、石川の玄関口となる新幹線金沢駅新築工事が始まりました。改札口や待合室など駅舎部分約3150㎡と、ホーム階全体を囲む旅客上屋約1万1300㎡を整備する

計画で、完成は平成26年9月を予定しています。新幹線ホームとなる3階には、長さ312mのプラットホーム2面と線路4本が整備され、1階には改札口と駅事務室、中2階には在来線の乗り換え改札口と待合室などが設置されます。



▲金箔をレイアウトした柱が印象的なプラットホーム

駅舎は金沢駅のシンボルであるもてなしドームと調

和したゆるやかな曲線の屋根や大きなガラス壁、金沢漆器を思わせる黒い外壁が特徴で、伝統とモダンが融合した金沢らしいデザインとなっています。

## 北陸新幹線

### 開業カウントダウン フォーラム(仮称)開催

新幹線金沢開業まで2年となり、県民一人ひとりが首都圏から多くの方々をお迎えする気持ちを持っていただくため、「開業カウントダウンフォーラム(仮称)」を開催します。フォーラムでは開業を見据えた加賀、金沢、能登など各地域の取り組みや開業に向けて今後どう取り組むべきかをパネルディスカッションで議論します。ぜひ皆さんご来場ください。

日時/3月30日(土) 13:30~  
場所/北國新聞赤羽ホール  
(金沢市南町2番1号)

問い合わせ/  
県新幹線・交通対策監室開業企画課  
TEL 076 (225) 1319



▲生まれ変わる金沢駅の完成イメージ図

●問い合わせ  
県新幹線・交通対策監室 TEL 076(225)1331



# 平成25年度からの 首都圏向け開業PRの 実行プランを策定中

東京・日本橋で  
大規模イベントを展開

県や県内全域の幅広い関係者からなる新幹線開業PR戦略実行委員会では、年度内に「新幹線開業PR戦略実行プラン」を策定します。同プランは、平成25年度から5年間の指針として首都圏等への情報発信や受け地での魅力づくりなどの具体策をまとめ、開業効果の県内全域への波及などを指すものです。

それを財源の面から担保する意味でも、県議会や県民の皆さんの協力を得て120億円規模の「新幹線開業PR推進ファンド」を創設します。このファンドの運用益を使って、例えば26年10月に開催される「日本橋・京橋まつり」とタイアップした大規模なPR活動を展開します。名の通った老舗が軒を並べる日

開業をPR



▲多くの人でにぎわう「日本橋・京橋まつり」

本橋は、歴史と伝統に培われた石川県のブランドイメージに合うとともに、東海線など五街道の起終点であるほか、北陸新幹線のルートと重なるかつての加賀藩前田家の参勤交代のルートの起点でもあります。そんな日本橋で、山代大田楽や能登のキリコ、加賀鳶はしご登りなどを披露する大パレードを実施するとともに、石川の食、伝統工芸などをPRするブースを出店し、北陸新幹線開業をアピールします。

実行委員会では、プラン推進にあたって、「いしかわ百万石物語」

をキャッチコピーとし、今年度内にはロゴマークも決定します。今後は、北陸を舞台としたJRの大型観光企画「デザインেশョンキャンペーン」の実現を働きかけるなど、新幹線開業に向け、準備を加速していくこととしています。

## JR西日本の協力受け 並行在来線の 開業準備も進む

北陸新幹線の金沢開業に伴い、JR西日本から経営分離される金沢駅―富山県境間の並行在来線についても、開業準備が着々と進んでいます。

知事とJR側が直接会談するなど、JR側と精力的に交渉を重ねてきた結果、新型車両と線路等の鉄道資産について、極めて低廉な価格で譲渡を受けられることとなりました。また、JRから派遣される社員の人員費や線路などの修繕費の一部をJRが負担することなど、住民の足であり、新幹線開業後の二次交通を担う並行在来線の運営について、県民の皆さんに極力負担をかけないようにできる

## 並行在来線対策



▲JR西日本から譲渡される新型車両の同型車

限りの協力を約束していたきました。昨年11月から12月にかけては、経営主体となる第三セクターの会社社名も公募。今年3月ごろには内定する予定で、県民から親しまれる石川らしい会社名にしたいと考えています。

●問い合わせ  
【新幹線開業PR戦略実行プランについて】

県新幹線開業PR推進室

TEL 076(225)1537

実行プラン中間報告の内容はこちら

新幹線開業PR推進室

検索

【並行在来線対策について】

県新幹線・交通対策監室

TEL 076(225)1398

## 里山里海だより

SATOYAMA  
SATOUMI

# 新崎・志ヶ浦地区 (穴水町)

波穏やかな七尾北湾に面した新崎・志ヶ浦地区。古くは半農半漁を営む住民が多く、今でも美しい里海と里山の光景に触れられます。県が指定する先駆的里山保全地区に選ばれる同地区では、この恵まれた地域資源を生かし、積極的な町おこしに取り組んでいます。

流したり、昔ながらの海辺の環境に近づけようと自然石をコンクリートの護岸に投入したりするなど、里海の生態系の保全にも知恵を

絞っています。今後、訪れた人を地元の幸満載のピザでもてなすため、ピザ釜を手づくりするなど、多様な活動を進めています。

## ボラ待ちやぐらを再建し ボラ漁体験を計画

その象徴が、湾内に組まれた高さ約8メートルの「ボラ待ちやぐら」で、平成23年8月に志ヶ浦地区に建てたやぐらを、この春には新崎地区に移設する予定です。やぐらは、かつて穴水町で盛んに行われたボラ漁に使われたもので、23年の世界農業遺産の認定により、日本最古の漁法として注目されました。同地区では、このやぐらを使った伝統の漁法を復活し、ボラ漁体験を企画しています。また、クロダイを毎年放



▲森林保全のために伐採したアテの間伐材を使い、町のシンボルでもあるボラ待ちやぐらを再建しました

## 里山からの メッセージ 若者が帰ってくる町に

「高齢化や過疎化は新崎・志ヶ浦地区にとっても大きな課題であり、地域に活力を吹き込むため、4年前に協議会を発足しました。協議会では、環境保全に取り組むとともに、里山里山の自然を活用した新たなビジネスモデルが確立できないかを探っています。なぜなら、都市部に出て行った若者たち

が故郷に戻ってきたいと思っ  
た時に働ける環境を整えてお  
きたいからです。そのために、  
今はいろいろなアイデアを  
企画している段階で、  
ボラ料理の観光資源  
としての利用など多くの  
の可能性を形にしてい  
きたいと思います」



新崎・志ヶ浦地区里山里山推進協議会 会長 岩田 正樹さん



新崎・志ヶ浦地区  
里山里山推進協議会  
穴水町新崎二の38番地  
TEL 0768(52)0752  
ホームページ www.ns-sato.jp/

冬の能登の味覚を満喫

# 能登ふるさと博



毎週末、  
うまいもんイベント  
3/3まで開催中

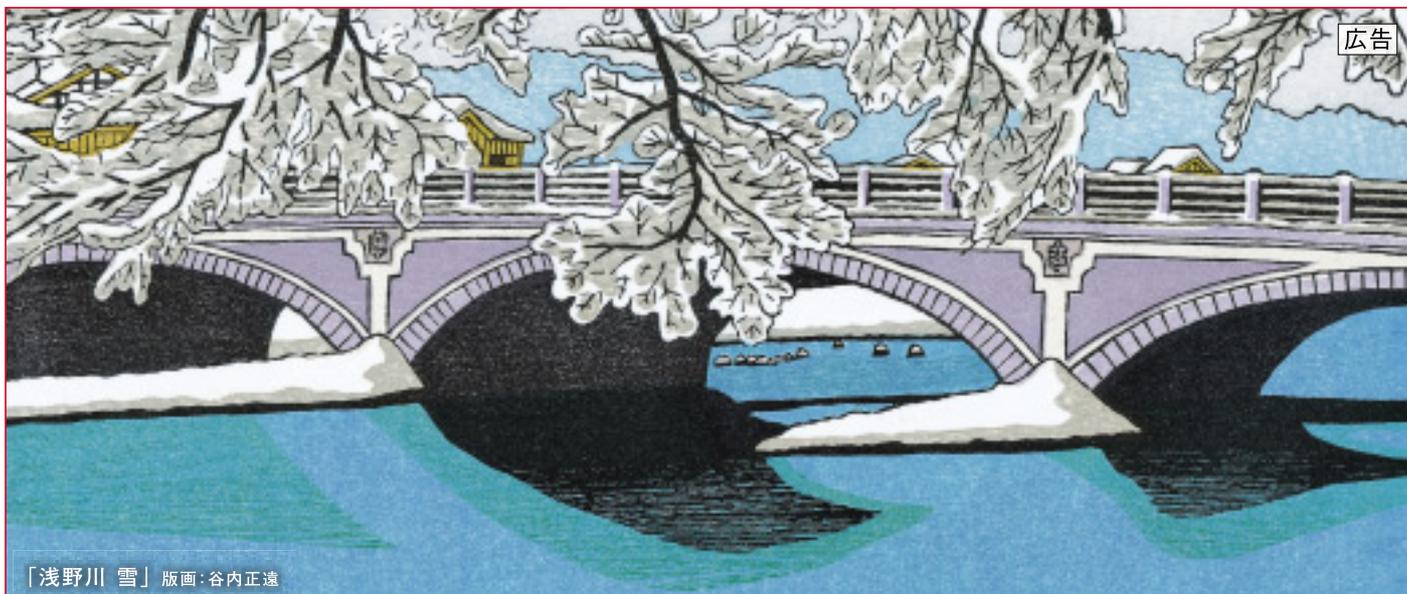


詳しくは  
コチラ



● 問い合わせ 「ほっと石川」観光キャンペーン実行委員会(事務局:県観光推進課) TEL 076(225)1542 ホームページ hot-ishikawa.jp/notohaku/

広告



「浅野川 雪」 版画:谷内正遠

## 明治10年8月、加賀藩前田家の出資により創業

明治9年の銀行条例改正を機にいち早く金沢に誕生したのが、北陸銀行の前身である「金沢第十二国立銀行」であり、明治10年7月2日(開業は8月26日)、時の大蔵卿「大隈重信公」から開業免状が下付されました。

資本金20万円のうち、加賀前田家から過半の14万円が出資され、初代頭取は御算用奉行などの要職を歴任し、福沢諭吉とも親交のあった「小幡和平」が就任しました。

また初代支配人の「米山道生」は、明治12年、第2代石川県会議長となり、明治13年1月金沢商法会議所(現金沢商工会議所)の初代会頭に任じられました。

明治初年の大変革期にあって、金沢回生の一翼を担ったのは、加賀藩士と今の北陸銀行でした。



● 金沢第十二国立銀行開業免状の写(北陸銀行金融歴史資料館蔵)

金沢支店 / 〒920-8686 金沢市南町5-28 TEL.076-263-5131

www.hokugin.co.jp

お客さまの「うれしい」を、私たちの「うれしい」に。北陸銀行

### 前略 石川県知事

県政に対する  
ご意見・ご提言を  
お寄せください



住所・郵便番号・氏名・年齢・職業をご記入の上、郵便またはファクスでお送りください。

〒920-8580 (住所の記入不要)  
石川県広報広聴室「前略 石川県知事」あて  
TEL 076 (225) 1362 FAX 076 (225) 1363

### ふるさと納税

「ふるさと石川」の魅力アップに活用します。県外在住のご協力者を紹介してください。

● 問い合わせ  
石川県県民交流課 TEL 076 (225) 1361  
www.pref.shikawa.lg.jp/kenmin/furusatonouzei/